

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成29年4月3日(月) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

発表事項

1. 山形大学行動計画「Annual Plan 2017」について
2. 新理事の紹介
3. 教授の着任について
4. 山形大学が保有する有機EL等関連特許を活用した大学発ベンチャーを設立

お知らせ

1. 農学部で平成29年度「食と農のビジネス塾」受講生を募集
2. 大学の講義を体験してみませんか？～トワイライト開放講座のご案内～
3. 特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯(ともしび)に」
－ 高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集 －

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成29年4月20日(木) 11:00～11:45

場 所：法人本部第二会議室(小白川キャンパス法人本部棟4階)

学長定例記者会見(4月3日)発表者

1. 山形大学行動計画「Annual Plan 2017」について

学 長

こやま きよひと
小山 清人

2. 新理事の紹介

学 長

理事(財務、施設、危機管理・業務改善担当)・副学長

こやま きよひと
小山 清人
こじま ひろたか
小島 浩孝

3. 教授の着任について

学 長

学術研究院 教授(国際事業化研究センター長)

こやま きよひと
小山 清人
おの でら ただし
小野寺 忠司

4. 山形大学が保有する有機EL等関連特許を活用した大学発ベンチャーを設立

学術研究院 産学連携教授

学術研究院 教授(機能高分子工学)

こもだ たくや
菰田 卓哉
き ど じゅんじ
城戸 淳二

平成29年4月3日
山形大学

山形大学2017年度行動計画 「Annual Plan 2017」について

山形大学の2017年度（平成29年度）の行動計画として、「Annual Plan 2017」を策定しましたので、公表します。

このたび、山形大学の2017年度（平成29年度）の行動計画として「Annual Plan 2017」を策定しましたので、ここに公表します。

「Annual Plan」は、山形大学のステークホルダー（教職員、学生・保護者等）に当該年度の経営方針及び行動計画を周知し御理解いただくことを目的に毎年度始めに策定しているものであり、特に、各理事を中心に、教職員が当該年度の「Annual plan」の項目を日常的に意識し、業務に取り組んでいただくことをねらいとしています。

今年度は、国立大学法人としての第3期中期目標・中期計画の2年目であることから、昨年の「Annual Plan 2016」を策定したときの考え方を継承し、山形大学が更に飛躍するための項目に精選（全25項目）しており、各項目は、特に今年度重点的に実施するもので、年度計画を上回る成果や高い到達点にチャレンジするものを基本に策定しています。

また、第3期中期目標・中期計画が達成すべき数値・時期を明示し、達成度の評価が可能となるように具体的な目標・計画の設定となっていることから、「Annual Plan 2017」の各項目においても、達成すべき数値・時期が明確となるようにできるだけ具体的に策定しています。

（お問合せ先）
企画部企画課
電話 （628）4193



2017年度 行動計画



Yamagata University
Annual Plan 2017

3つの使命

社会における役割・存在意義
—何を成すために山形大学が存在するのか—

地域
創生

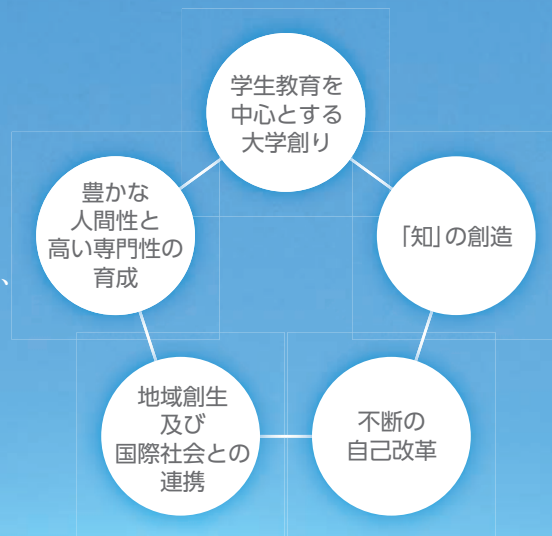
次世代
形成

多文化
共生

5つの基本理念

組織のあるべき姿
—役割を果たすために何を為すのか—

山形大学は、
「自然と人間の共生」をテーマとして、
右の5つの基本理念に沿って、
教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、
国際化に対応しながら、
地域変革のエンジンとして、
キラリと光る存在感のある大学を目指す。



「山形大学で学んで本当に良かった。」 そう言ってもらえることが私たちの願いです。

2017年度（平成29年度）の行動計画として「Annual Plan 2017」を策定しましたので、ここに公表します。

この4月、山形大学では新たな教育システムでの人材育成がスタートします。新教育方針での教育プログラムの編成、基盤教育改革を軸とした学士課程教育の体系化、学生の将来を意識した学部・大学院の改編など、大学教育の根幹をなす改革です。

背景にあるものは、急激かつ複雑に変化する社会情勢です。我々を取り巻く環境は、社会問題や技術革新など様々な要因が複雑に絡み合い、加速度的かつ予測し得ない大きな変化を遂げています。

この時勢に求められる大学の役割は、現状の社会を支える人材だけでなく、将来の社会をリードし、支える人材、言い換えれば、時空間での広い視野で時代の潮流を的確に捉え、かつ社会の変化を主体的にリードし、柔軟に対応できる能力を持つ人材の養成です。

本学が目指す学生教育とは、これら社会的要請に応える人材を育成することです。

一方、学生への教育を支える柱として、「高度な研究」と「健全な経営」が不可欠です。

良い教育の根底には、その裏付けとなる良質な研究が必要です。本学の900名の教員が常に最先端の研究を進めることにより、学生教育と有機的に結合し、より良い教育を展開することが可能となります。そのためには、教員の興味と意欲をかき立てる研究環境が重要となってきます。

また、国から独立した一機関である以上、良質な教育研究と同等に重要なことは、健全な経営です。大学財政は年々厳しさを増していますが、学生教育への投資を絶やすことはできません。あらゆる方策、多くの知恵を振り絞って、この危機を乗り越えていかなければなりません。

学生の可能性を見だし、引き出すこと。そして、学生に「山形大学で学んで本当に良かった。」と言ってもらえること。それこそが、山形大学が果たすべき役割であり、願いです。

今後も山形大学にご期待ください。

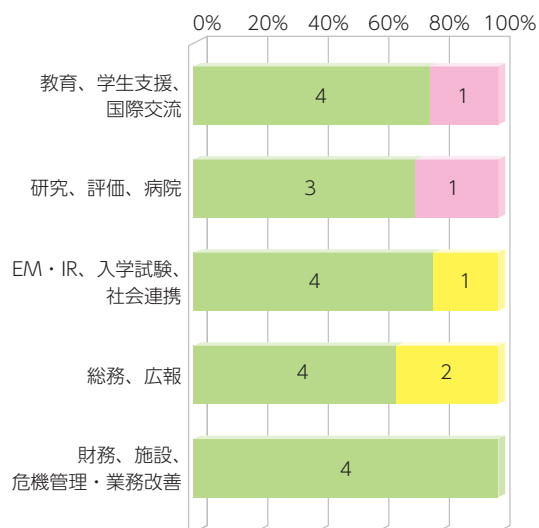
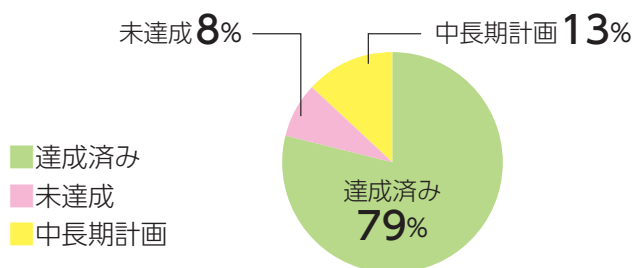


山形大学長

小山 清人

KOYAMA Kiyohito

Annual Plan 2016 の達成状況



Yamagata University Annual Plan 2017



CONTENTS

教育 学生支援 国際交流

担当理事・
副学長 安田弘法 ——— 6

研究 評価 病院

担当理事・
副学長 久保田 功 ——— 7

EM・IR 入学試験 社会連携

担当理事・
副学長 大場好弘 ——— 8

総務 広報

担当理事・
副学長 阿部宏慈 ——— 9

財務 施設

危機管理・業務改善

担当理事・
副学長 小島浩孝 ——— 10

教育組織の改編 ————— 11

教育 学生支援 国際交流

担当理事・副学長 **安田 弘法**
YASUDA Hironori



■基本方針

教養教育と専門教育を連動させた「新基盤教育」を基に学士課程教育の体系化と、大学院課程教育の充実・強化を図り、知・徳・体の調和がとれ、地域を創生し、多文化共生社会でも活躍する次世代形成の志ある人材を育成します。また、学生のニーズを的確にとらえて、学生生活が充実するよう手厚い支援を実施します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

学生の主体的学修及び能動的学修を促進するため、課題解決型授業（PBL）の導入や既存科目をアクティブラーニング型授業及びフィールドワーク型授業へ転換した学生主体型授業を平成30年度に向けて30科目程度増やすための検討を行います。

PLAN 2

大学院課程において、専門分野を超えた幅広い教養や実践的能力、高度な人間力を育成するために、専攻や研究科の枠にとられない共通科目を平成30年度に8科目程度新たに開講する準備をします。

PLAN 3

学生の心身の健康を保持・充実させるため、学生委員会がアドバイザー教員や保健管理センターから収集した相談事例や健康状況を分析して情報交換し、学部等にフィードバックすることできめ細かな指導と手厚い支援に活かします。

PLAN 4

学生生活及び正課外活動を充実させるため、学生厚生施設や課外活動施設の整備、学生のサークル活動やボランティア活動等に対する物的・人的支援を5件程度行います。

PLAN 5

多彩な国際交流活動を推進するため、新たな交流協定を6件以上締結します。また、グローバル社会で活躍する人材育成を図るため、学生大使等100人以上の派遣を目指します。

研究 評価 病院

担当理事・副学長 **久保田 功**
KUBOTA Isao



■基本方針

世界をリードする研究・診療を実施するとともに、山形大学の更なる発展に資するため、厳格な自己評価を行います。

2017年度 行動計画

PLAN 1

大型研究種目（特別推進研究、基盤研究S・A）への応募を支援する仕組みを整備し、10件以上の応募を目指します。

PLAN 2

研究活動の更なる活性化を図るため、学術研究院設置の趣旨（教員組織の一元化）を踏まえ、研究組織の体制整備を行います。

PLAN 3

年度計画に係る法人評価について、各部局等からの資料収集業務の効率化を図り、審議のための時間を十分に確保します（現状：約1ヶ月半→目標：約2ヶ月）。

PLAN 4

健全な病院経営を推進するため、経費抑制のための取組を更に推し進め、医療費を1億円削減します（平成28年度比）。

PLAN 5

医療の国際化への取組として、外国人患者の院内受入体制の整備を行います。

EM・IR 入学試験 社会連携

担当理事・副学長 **大場好弘**
OHBA Yoshihiro



■基本方針

総合的學生支援（EM）と大学機関研究（IR）により大学経営改善に貢献するとともに、教育研究成果の社会還元により「地域創生」のエンジンとしての役割を果たします。

- ※「EM」はEnrollment Managementの略で、総合的學生支援と訳されるもの。
- ※「IR」はInstitutional Researchの略で、大学機関研究と訳されるもの。

2017年度 行動計画

PLAN 1

入学志願者確保のため、東北6県及び栃木県、茨城県、新潟県において高校教員を対象とした説明会を開催し、本学の強み・特色・入試方法等について説明するほか、アドミッション担当教員による高校訪問数500校以上を目指します。

PLAN 2

入学者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、英語の資格・検定試験を平成31年度入試から推薦入試及びAO入試に導入するため、評価・判定方法を構築します。

PLAN 3

学内の諸活動を効率的に収集するシステムを導入し、本学の教育、研究、社会貢献に関する効果検証を行うためのKPI（Key Performance Indicators：主要業績指標）を3つ策定します。また、合格者専用のポータルサイトを構築し、合格者アンケートなど必要な情報を早期に収集するシステムとして運用します。

PLAN 4

「産学官連携推進本部」を新たに設置し、大型研究プロジェクト等の支援を行うとともに、新たな大型研究プロジェクト（1,000万円以上）の獲得を3件以上支援します。

PLAN 5

東北創生研究所において、地域の課題に係るプロジェクトの研究成果を活用しつつ当該地域と連携し、第3期中期計画では、3件以上の実証結果を取りまとめることとしているため、単年度では、1件以上の実証結果を取りまとめます。

総務 広報

担当理事・副学長 **阿部宏慈**
ABE Koji



■基本方針

学長を中心として効率的な大学経営を更に推進します。また、多様な人材を育成するための人事制度及び教職員が能力を発揮できる職場環境を整備するとともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、ダイバーシティ環境の構築を進めます。さらに、情報発信の多様化と国際化を推進します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

「山形大学広報戦略」により、戦略的なメディアミクスを展開します。また、日本語版、英語版、それぞれの動画配信を増やし、合計視聴回数の前年度比15%増を目指します。

PLAN 2

事務職員の人事評価制度について、役割達成度評価と職務行動評価の内容や評価時期を見直すとともに、それぞれの評価結果を、昇給や賞与等の人事上の処遇に適正に反映させる制度を整備します。

PLAN 3

教員の年齢別構成人数の均衡化を図り、組織を活性化するため、新規採用教員のうち5割以上を37歳以下にします。

PLAN 4

山形大学基金について皆様からのご理解・ご支援をいただけるよう丁寧に募金活動を展開し、基金の拡充を図るとともに本学の学生支援、教育研究支援、国際交流支援等の事業の更なる充実に繋がります。
【募金活動計画額：3,000万円】

PLAN 5

女性活躍の一層の推進を図るため、各キャンパスへの保育所整備を目指します。また、時間外勤務を縮減し、ワーク・ライフ・バランスを実現するための管理職研修やシンポジウムを開催します。

財務 施設 危機管理・業務改善

担当理事・副学長 **小島 浩孝**

KOJIMA Hirotaka



■基本方針

教育・研究・診療及び社会貢献など、本学の役割を確実に果たしていくために、効率的、効果的及び健全な財務運営を目指すとともに、本学の理念に相応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的に推進します。

また、法令遵守及びリスクマネジメント体制を整備して内部統制機能を強化するとともに、業務の見直し及び改善を不断に推進します。

2017年度 行動計画

PLAN 1

「新たな収入の増を考えるプロジェクトチーム」が提言した「提案書」の進捗状況を確認しながら、自立的かつ持続的な経営を行うために6,000万円以上の自己収入の増を図ります。

PLAN 2

「山形大学における経費抑制に関する行動計画」に基づき、各推進員の活動により法人本部及び法人部局に高いコスト意識を浸透させるため、チェックリストによる取組状況調査を実施し、その中から効率的な取組を発信していくなどして情報の共有化を図り、一般管理費比率を2%台に維持します。

PLAN 3

エコキャンパス整備支援事業（学内公募）などにより、平成28年度に鶴岡キャンパスで実施した省エネ診断の結果に基づく空調の効率改善等を含め、地球環境に配慮した施設整備を10件以上実施します。

PLAN 4

役職員及び学生の法令遵守等に関する知識、意識等の向上を図るため、「コンプライアンス推進規程」、「コンプライアンス指針」等に基づく研修・講習等を年2回以上開催し、各部局においても教育・研修等を促すとともに、リスクモニタリング結果等の共有を徹底します。

PLAN 5

全事務組織で「山形大学労働生産性向上プロジェクト」を実施し、全課全室において1件以上の業務の見直し・改善を行うとともに、電子決裁、ペーパーレス化を推進し、超過勤務手当の削減（前年度比10%減）等を図ります。

教育組織の改編

山形大学は、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出す国立大学を目指して、平成29年4月に5学部・2研究科で組織の改編を行いました。

詳細は、ホームページをご覧ください。 <http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/entrance/about2017/>

学部

(平成29年3月まで)

(平成29年4月から)

人文学部

入学定員 (300)

人間文化学科 (100)
法経政策学科 (200)

人文社会科学部

入学定員 (290)

人文社会科学科 (290)

地域教育文化学部

入学定員 (240)

地域教育文化学科 (240)
児童教育コース (80) スポーツ文化コース (20)
異文化交流コース (20) 食環境デザインコース (35)
造形芸術コース (15) 生活環境科学コース (25)
音楽芸術コース (20) システム情報学コース (25)

地域教育文化学部

入学定員 (175)

地域教育文化学科 (175)
児童教育コース (80)
文化創生コース (95)

理学部

入学定員 (185)

数理科学科 (45) 生物学科 (30)
物理学科 (35) 地球環境学科 (30)
物質生命化学科 (45)

理学部

入学定員 (210)

理学科 (210)

工学部

入学定員 (620)

【昼間コース】
機能高分子工学科 (110) 情報科学科 (75)
物質化学工学科 (75) 電気電子工学科 (75)
バイオ化学工学科 (60) 機械システム工学科 (115)
応用生命システム工学科 (60)
【フレックスコース】
システム創成工学科 (50)

工学部

入学定員 (650)

【昼間コース】
高分子・有機材料工学科 (140) 機械システム工学科 (140)
化学・バイオ工学科 (140) 建築・デザイン学科 (30)
情報・エレクトロニクス学科 (150)
【フレックスコース】
システム創成工学科 (50)

農学部

入学定員 (155)

食料生命環境学科 (155)

農学部

入学定員 (165)

食料生命環境学科 (165)

※ 医学部は改編なし。

大学院

(平成29年3月まで)

(平成29年4月から)

理工学研究科 (理学系)

入学定員 (58)

数理科学専攻 (M) (11) 生物学専攻 (M) (9)
物理学専攻 (M) (12) 地球環境学専攻 (M) (8)
物質生命化学専攻 (M) (13) 地球共生圏科学専攻 (D) (5)

理工学研究科 (理学系)

入学定員 (58)

理学専攻 (M) (53)
地球共生圏科学専攻 (D) (5)

医学系研究科

入学定員 (69)

医学専攻 (4年制D) (26) 生命環境医科学専攻 (M) (15)
看護学専攻 (M) (16) 生命環境医科学専攻 (D) (9)
看護学専攻 (D) (3)

医学系研究科

入学定員 (69)

医学専攻 (4年制D) (26) 先進的医科学専攻 (M) (15)
看護学専攻 (M) (16) 先進的医科学専攻 (D) (9)
看護学専攻 (D) (3)

※ (M)は博士前期課程、(D)は博士後期課程の略。

※ 社会文化システム研究科、地域教育文化研究科、理工学研究科 (工学系)、有機材料システム研究科、農学研究科及び教育実践研究科は、改編なし。



Yamagata University Annual Plan 2017

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。
ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会

【お問い合わせ先】山形大学企画部企画課

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

Tel : 023-628-4190 Fax : 023-628-4849

e-mail : kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【ホームページ】<http://www.yamagata-u.ac.jp>

平成29年4月3日
山形大学

新理事の紹介

平成29年4月1日付で役員の交代がありましたので、ご紹介します。

- 小島 浩孝（こじま ひろたか）
理事・副学長

担当：財務、施設、危機管理・業務改善

（お問合せ先）
総務部人事課 阿部
電話 023-628-4023

平成29年4月3日
山形大学

教授の着任について

山形大学では、平成27年4月からすべての教員が学術研究院に所属し、各学部・研究科等における教育課程の担当として学部・研究科等に配置されております。
平成29年4月1日付で教授が1名着任しましたので、お知らせします。

- 小野寺 忠司（おのでら ただし）
国際事業化研究センター長

採用年月日：平成29年4月1日

担当業務：研究シーズの発掘・育成、ビジネスモデル策定支援、起業家人材・
経営人材育成等

（お問合せ先）
総務部人事課 阿部
電話 023-628-4023

平成29年4月3日
山形大学

山形大学が保有する有機EL等関連特許を活用した大学発ベンチャーを設立

山形大学の^{こもだたくや}菰田卓哉産学連携教授、^{きどじゅんじ}城戸淳二教授らは、山形大学が保有する有機EL等関連特許を活用した有機ELをはじめとする有機半導体関連材料の研究開発及び製造販売を行う「株式会社フラスク」を設立します。

城戸教授らは、これまで独立行政法人科学技術振興機構（JST）の大型プロジェクトである地域卓越研究者戦略的結集プログラム（2009~2014）、戦略的イノベーション創出推進プログラム（2009~）、革新的イノベーション創出プログラム（2014~）を実施し、有機ELなど有機半導体デバイス用の材料を開発して数多くの特許を出願し、取得してまいりました。株式会社フラスクではこれら特許化した材料の製造や、新規な有機半導体材料の研究開発から製造までを行い、有機ELディスプレイメーカー、有機EL照明パネルメーカーなどに販売いたします。

山形大学としては9社目の大学発ベンチャーの設立であり、今後、有機EL・太陽電池関連メーカーや国・地方自治体との協働により新たなビジネスモデルを構築していきます。

新会社の概要

- | | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社名 | : 株式会社フラスク |
| 設立 | : 平成29年4月 |
| 所在地 | : 山形県米沢市（山形大学米沢キャンパス内） |
| 代表取締役社長 | : 菰田 卓哉 山形大学産学連携教授 |
| 最高技術責任者 | : 城戸 淳二 山形大学教授 |
| 資本金 | : 500万円 |
| 業務内容 | 1. 有機、無機および有機・無機ハイブリッド電子材料、光学材料の研究開発、評価、製造、輸出、販売、特許の取得及び許諾
2. 有機、無機および有機・無機ハイブリッド電子デバイス、光学デバイス、応用製品の研究開発、評価、企画、製造、輸出、販売、特許の取得及び許諾
3. 有機、無機および有機・無機ハイブリッド電子デバイス、光学デバイス、応用製品製造技術の研究開発および製造装置の製造、販売、輸出
4. 経営および技術に関するコンサルティング事業
5. 前各号に附帯し、または関連する一切の事業 |

（お問い合わせ先）
学術研究院 教授 城戸 淳二
Mail. junjikido@icloud.com

平成29年4月3日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 農学部で平成29年度「食と農のビジネス塾」受講生を募集

昨年度、鶴岡市と共同で開始した地域定住農業者育成プロジェクト事業の1つとして、昨年に引き続き「食と農のビジネス塾」を開講します。受講料は3万円、募集人数は30名です。

期間：平成29年4月25日（火）～平成30年2月2日（金）

受講料：3万円

募集：30人

2. 大学の講義を体験してみませんか？～トワイライト開放講座のご案内～

山形大学小白川キャンパスにある人文社会科学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として広く開放します。（理学部の授業科目は一般市民も受講可能です。）前期、後期の開講スケジュールが決まり、募集を開始しました。

詳しくはホームページをご覧ください。

3. 特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯(ともしび)に」

－ 高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集 －

山形大学高校生朗読コンクールは東北6県の高校生を対象に平成20年度から実施しており、今年で第10回を迎えます。今年度は浜田広介記念館にご後援いただき、高島町出身の浜田廣介作品を課題として、出場者を募集します。

また、本学学生が山形の市民の皆さま、子どもたちとともに群読劇「泣いた赤鬼」（浜田廣介作）を制作・上演します。5月から開始される稽古に向け、出演者を募集します。

※これまでにお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎ 山形大学入学式の取材に対するお願い

平成29年度入学式を山形県体育館で挙行いたします。

式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

日時：平成29年4月4日（火）10：30開式

会場：山形県体育館（山形市）

平成29年4月3日
山形大学

農学部で平成29年度「食と農のビジネス塾」受講生を募集

農学部は28年度に鶴岡市と共同で開始した地域定住農業者育成プロジェクト事業の2年目事業の1つとして、4月25日に「食と農のビジネス塾」を開講します。①食や農でビジネスを行おうとする・行っている方、②食や農のビジネスを支援している・支援しようとしている方、③食や農のビジネスに協力している・協力しようとしている方など、食や農のビジネスについて実践的な内容を含めて学びたい方を募集しています。

1. 28年度の実績

28年度は受講生14名の受講があり、年代は20代、30代はもとより50代、60代と幅広く、また山形市、酒田市、庄内町からも参加されました。166.5時間のカリキュラムの内120時間以上履修し、ビジネス計画書を作成・発表することが修了要件で12名が修了しました。つるおか大産業まつりでの販売実習、山形・宮城の先進農家視察なども積極的に受講し、多くが更なる成長を目指した計画を作成しました。修了生は年代を超え、地域を越えたネットワークを構築して修了後も情報交換し、本事業の相談機能を有効に使い、修了後も成長を続けています。

2. 29年度の概要

29年度は28年度の受講者の声を反映し、より受講者の希望に添う内容としました。30年2月2日の修了式までの足かけ11カ月、講義、演習、ディスカッションの座学は5～9月は週3時間、10月以降は毎週4.5時間です。他に6月8,9日先進地研修、10月14,15日つるおか大産業まつりでの販売実習、首都圏の駅での販売実習も計画しています。受講者の多くが社会人と想定しているため、ほぼ毎回の講義を録画し、やむを得ない事情で欠席した受講者は録画での受講も可能です。

受講料は3万円、募集人員は30名です。

なお、文部科学省の「職業実践力育成プログラム」(BP)にも認定を受けています。

3. 29年度受講生募集の延長

募集は4月4日までとじていますが、人員に余裕がある限り受け付けます。

(お問合せ先)

学術研究院 教授 小沢 亙 (農学部担当)

電話 0235-28-2944

E-mail: wo1995@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp



Brush up Program
for professional

平成29年度

参加者募集

食と農の ビジネス 塾

しっかりとした
ビジネスプランを作成して
頑張っていきたい！

売れる農産物を作りたい！

自立した農業者をめざして！

受講料

30,000 円

1年間の費用です

定員

30 名

食・農ビジネスを
やりたい方
支援したい方
協力したい方

お申込期間

平成29年3月1日(水) **募集期間延長します**
～4月4日(水)

講座期間

平成29年4月25日(火)
～平成30年2月2日(金)

迷ったら
参加してみてください！

受講生同士で刺
激し合い、どん
どん意欲が出て
きました

※平成28年度参加者の声



地域定住農業者育成コンソーシアム

TEL 070-2011-5615 FAX 0235-28-2944

E-mail : youngf.sp2016@gmail.com

鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部内

主催：地域定住農業者育成コンソーシアム

(構成団体等：山形大学、鶴岡市、庄内総合支庁農業振興課・農業技術普及課、JA庄内たがわ、JAつるおか、鶴岡市農業委員会、鶴岡商工会議所、出羽商工会、日本政策金融公庫山形支店、庄内銀行、鶴岡信用金庫、他個人)

平成 29 年度 食と農のビジネス塾

地域定住農業者育成コンソーシアムは農業を志す若手農業者に対し、自立（経営感覚の優れた担い手）に向け、①研修指導、②農産物販売支援、③住宅・生活支援、④農地支援、⑤就農・自立化相談などの総合的な機能で支援し、地域定住に繋げ、農業の発展と地域経済の振興を図ることを目的に、平成 28 年 4 月に発足しました。

優れた経営感覚と販売ノウハウを養成するために、山形大学農学部で「食と農のビジネス塾」を開講します。

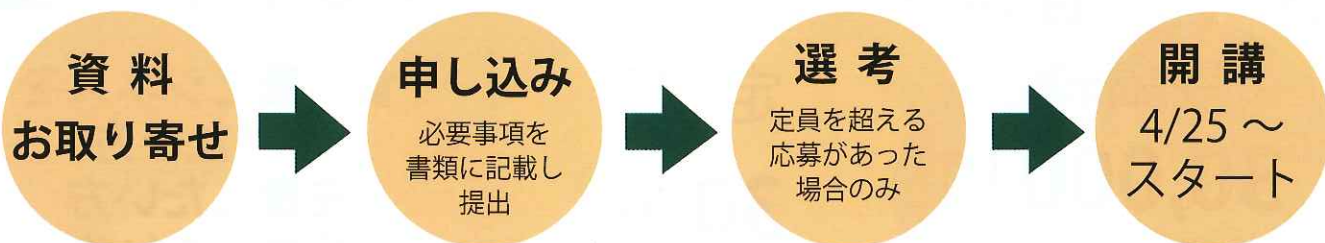
基礎、経営、加工、販売、農業技術、ビジネス計画書作成の 6 つの科目について、視察、実習 38.5 時間を含む 166.5 時間のコースで体系的に学んで頂きます。

※平成 28 年 12 月に文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) に認定されています。

社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定する制度です。

※教育プログラムを 120 時間以上履修・提出のビジネス計画書で合格の評価を得ることで修了認定となります。

申し込み方法



お気軽にお問い合わせください！

詳しい講座内容
などもわかります

4 月～9 月 火曜日 13:00～16:40

10 月～2 月 金曜日 10:30～16:40

※開講日・時間帯は変更する場合があります。

地域定住農業者育成コンソーシアム

TEL 070-2011-5615 FAX 0235-28-2944

E-mail: youngf.sp2016@gmail.com

鶴岡市若葉町 1-23 山形大学農学部内

カリキュラム一例

- ・食と農のビジネス～今農業者が目指すもの～
(門間敏幸氏 東京農業大学名誉教授・日本農業経営学会元会長)
- ・食と農のブランディング
- ・ビジネス計画書作成
- ・販売力強化講座
- ・庄内の在来作物
- ・野菜の栽培管理 など



山形大学農学部の教授のほか、外部講師など専門的な内容を学ぶことができプロともつながることができる。

実習や視察など、体験から学ぶ講座も盛りだくさん



※応募に際してご記入頂いた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、受講者の統計以外の目的に使用いたしません。

募集期間延長します



Brush up Program
for professional

農林省「職業実践力育成プログラム」(BUP)

食と農のビジネス塾

平成29年度募集要項



地域定住農業者育成コンソーシアム

食と農のビジネス塾 平成29年度募集要項

I. はじめに

地域定住農業者育成コンソーシアムは農業を志す若手農業者に対し、自立（経営感覚の優れた担い手）に向け、①研修指導、②農産物販売支援、③住宅・生活支援、④農地支援、⑤就農・自立化相談などの総合的な機能で支援し、地域定住に繋げ、農業の発展と地域経済の振興を図ることを目的に、平成28年4月に発足しました。

優れた経営感覚と販売ノウハウを養成するために、山形大学農学部で「食と農のビジネス塾」を開講します。

基礎、経営、加工、販売、農業技術、ビジネス計画書作成の6つの科目について、視察、実習38.5時間を含む166.5時間のコースで体系的に学んで頂きます。

本募集要項では、「食と農のビジネス塾」受講生を以下の要領で募集します。

※平成28年12月に文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP)に認定されています。

社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定する制度です。

II. 募集について

1. 募集対象者

鶴岡市内及び市外に居住する下記の者

- ①食、農でビジネスを行おうとする者、行っている者
- ②食、農のビジネスを支援している者、支援しようとしている者
- ③食、農のビジネスに協力している者、協力しようとしている者

2. 募集定員（定員を超える応募があった場合には選考を行います）

30名

3. 応募資格

大学に入学することができる資格を有すること

※学校教育法第90条で規定される「高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者…（中略）…これと同等以上の学力があると認められた者とする。」

4. 受講料

30,000円／1年（分割納付も可能です。）

※ただし、現地研修等の参加費は別途個人負担となります。

農業生産等による収入のない場合には受講料を免除することがあります。

Ⅲ. 応募手続

1. 募集期間

平成29年3月1日（木）～4月4日（水） **募集期間延長します**

2. 応募方法

（1）応募書類の入手方法

本要項5～6ページにあります。

（2）応募書類の提出方法

必要事項を記載済みの入学申込書を下記に郵送するか、持参してください。郵送の際、封筒の表に「入学申込書在中」と朱書きしてください。

3. 応募書類

①入学申込書 写真1枚（縦4cm×横3cm程度）を貼付してください。

学歴は中学校卒業から記入してください。

②受講希望理由書 A4用紙1頁以内

4. 応募書類の提出先・問合せ先

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部内

地域定住農業者育成コンソーシアム事務局

TEL：070-2011-5615 FAX：0235-28-2944

E-mail：youngf.sp2016@gmail.com

5. 応募上の留意点

（1）郵送の際、封筒の表に「入学申込書在中」と朱書きしてください。

（2）応募書類の不備なものは受けられませんので、記載には十分留意ください。

（3）虚偽の記載があったものは、入学許可を取り消す場合があります。

6. 選抜方法

受講者の選抜は、受講資格を満たしているかを確認の上、決定します。定員を超える応募があった場合は書類選考します。

7. 発表

平成29年4月10日頃に本人に通知（文書発送）します。

IV. カリキュラム・修了要件

1. 開講式 平成29年4月25日（火）9：30

2. 開講期間・授業時間・開講場所

開講期間 平成29年4月25日（火）～平成30年2月2日（金）

授業時間 （4～9月）火曜日13：00～16：40

（10～2月）金曜日10：30～16：40

※週によって開講日、時間帯が変わることがあります。

カリキュラムの概要は別紙で確認してください。

開講場所 山形大学農学部講義室（鶴岡市若葉町1-23）

（施設整備工事があるため、今年度農場での講義はありません）

3. 修了要件

教育プログラムを120時間以上履修し、かつ作成したビジネス計画書が評価委員会から合格の評価を得ること。

※やむを得ず欠席した場合にはDVD受講を30時間まで認めます。

V. その他

1. 修了証明について

所定の修了要件を満たした方には、山形大学が学校教育法第105条に基づき履修証明書を授与します。

2. 個人情報の取り扱いについて

応募に際しご記入頂いた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、受講者の統計以外の目的に使用いたしません。

3. 問合せ先

地域定住農業者育成コンソーシアム事務局

〒997-8555 鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部内

TEL : 070-2011-5615 FAX : 0235-28-2944

E-mail : youngf.sp2016@gmail.com

受付時間 : 9 : 00 ~ 16 : 30

(※土日・祝祭日の受付は行いませんのでご注意ください)

平成 年 月 日

受付番号
※事務局記載

平成29年度 食と農のビジネス塾 入学申込書

ふりがな		写 真	(4cm × 3cm)
氏名			
性別	男・女		
生年月日	昭和・平成 年 月 日 (歳)		

連絡先 (自宅)	〒		
TEL		携帯電話	
FAX		E-mail	
緊急連絡先氏名・電話番号			

学 歴	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	
	年 月 日	

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

No.	日時	科目	概要	時間
1	4月25日(火) 9:30～10:30	開校式		
		オリエンテーション 食と農のビジネスの意義と役割・研修の狙い	現在の農業や農産物流通の現状を踏まえ、食と農のビジネスに取り組む意義と役割について学ぶとともに、研修のねらいを紹介し、受講者の動機付けを促進する。	1.5
2	13:30～16:40 (一般公開講座)	食と農のビジネス～今農業者が目指すもの、求められるもの～	食育、食農教育が語られ、都市農村交流が注目され、和食が世界無形遺産となるなど、食と農は強く消費者・国民に意識されている中、著名な有識者から食と農のビジネス、農業者が目指すべきもの、求められるものを学ぶ。	3
		ビジネス塾参加 私の狙い (ワークショップ)	受講者本人から参加のねらいを報告してもらい、受講者間の議論や講師陣からのアドバイスによって、受講者の意識の明確化を図る。	3
3	5月9日(火) 13:30～16:40	農業の経営戦略	必要な経営資源(ヒト・モノ・カネ)を調達して効率的に運用する枠組みについて、特に社内外におけるパートナーシップ構築の重要性とその方法論を学ぶ。	3
4	5月16日(火) 13:30～16:40	フードシステム	食と農の生産から消費までの流れを、川上の農林水産業、川中の食品製造業、川下の食品小売業・外食産業を経て最終の消費者の食生活に至る総合的なシステムとして把握する。	3
5	5月23日(火) 13:30～16:40	マーケティング	食と農に関するさまざまなマーケティング活動をグローバル・ローカルの両視点から論理的かつ実践的に学ぶ。	3
6	5月30日(火) 13:30～16:40	ケースメソッド(食と農のビジネス・ケースの解説)	実際に展開されている食と農のビジネスの事業創出の場面において、思考力、判断力、戦略代替案の設定と評価による最適な解決方法を決定する方法を身につける。	3
7	6月6日(火),7日(水)(宿泊研修)	農場(企業)実習 【視察研修】	農林漁業の高付加価値化のためになぜ食と農のビジネスが必要なのかを自らの地域の問題として理解するため、先進事例の視察を行う。	12

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

No.	日時	科目	概要	時間
8	6月13日(火) 13:30~16:40	グループワーク(視察研修を受けて)	視察を行った農場(企業)の特色や課題について、ディスカッションを行うことにより、自身の経営課題に対する対応力を習得する。	3
9	6月20日(火) 13:30~16:40	ビジネス計画書作成(1)	ビジネスプラン(計画書)作成のためのポイントを学ぶとともに、個人で作成を開始する。	3
10	6月27日(火) 13:30~16:40	食と農のビジネス 実践者は今	食と農のビジネスを実践している3名の経営者による経験談を通じ、経営戦略の多様な考えを学ぶとともに、意思決定スキル、農業経営管理の知識を経営実情に即して習得する。	3
11	7月4日(火) 13:30~16:40	ビジネス計画書作成(2)	個人でプランの作成を行い、全体像を確認する。	3
12	7月11日(火) 13:30~16:40	食と農のブランディング	食と農のブランディングと、そのブランドに最適な市場の求めるパッケージについて学ぶ。	3
13	7月18日(火) 13:30~16:40 (一般公開講座)	農村自給圏—スマート・テロワール—を指して	食料の供給過剰時代における農業、農村のあり方としての農村自給圏—スマート・テロワール—構想を学ぶ。	3
14	7月25日(火) 8:30~11:30	食と農のビジネス 取り組む農業経営者の今(視察研修)	食と農のビジネスに取り組む農業経営を訪問し、その取り組みを学ぶとともに、施設等を視察する。	3
15	8月1日(火) 13:30~16:40	販売力強化講座(1)	農業者が自らの生産物を販売する実践力を身につけるため、パイヤー等が求める農産物・加工品、商品カルテの作成方法などについて学ぶ。	3
16	8月8日(火) 13:30~15:00	「食産業王国やまがた」実現に向けた取り組み・支援策	経営の拡大・高度化に向け、国・県の各種支援施策、食品加工技術相談窓口、総合化計画の策定手順等について学ぶ。	1.5
	15:10~16:40	産業支援機関による支援策とその活用	農産物生産グループなどによる企業組合の設立実務や運営・活用方法、各産業支援機関による支援策等について学ぶ。	1.5

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

No.	日時	科目	概要	時間
17	8月22日(火) 13:30～16:40	経営設計－作物の組合せ、労働配分－	労働、土地の制約の中で最適な作物の組合せの方法について学ぶ。	3
18	8月30日(水) 13:30～16:40	食品加工場開設の実際	新たに加工所を開設する場合の留意点や、保健所等への法的な手続きのポイントについて学ぶ。	3
19	9月6日(水) 13:30～16:40	食品加工と衛生管理－基礎－	食品加工プロセスにおける衛生管理について理解し、その衛生管理方法について学ぶ。	3
20	9月12日(火) 13:30～16:40	食品加工と衛生管理－実践－ 【視察研修】	食品加工プロセスにおける衛生管理について、食品加工場等の施設を視察し、その現場を肌で感じると共に、管理技術などの解説を聞く。	3
21	9月19日(火) 13:30～16:40 (一般公開講座)	フード・コミュニケーション・プロジェクト	消費者の「食」に対する信頼向上のために重要な項目を整理し、消費者の食に対する信頼を高める。また、企業と商品価値を向上させるヒントを売ると同時に、それらを正確に伝えるためのコミュニケーション力を向上させる。	3
22	9月26日(火) 13:30～16:40	販売力強化講座(2)	つるおか大産業まつり2017での出店に向けて、商品の作り方等について学び、準備を行う。	3
23	10月6日(金) 13:30～16:40	販売力強化講座(3)	つるおか大産業まつり2017での出店準備を行う。	3
24	10月14日(土), 15日(日)	販売実習	鶴岡大産業まつりで、農産物販売、加工品販売の体験をするとともに、他の販売者の販売活動を視察し、販売方法について学ぶ。	12
25	10月20日(金) 11:00～12:30	農地情報と市町村支援策	農地情報と市町村の支援策について学ぶ。	1.5
	13:30～16:40	販売力強化講座(4)	つるおか大産業まつり2017での出店の成果を踏まえ、成果、課題について学ぶ。	3

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

No.	日時	科目	概要	時間
26	10月27日(金) 11:00~12:30	稲作の栽培管理	稲作の栽培技術を学ぶ。	1.5
	13:30~16:40 (一般公開講座)	庄内の在来作物	庄内の在来作物について学ぶ。	3
27	11月2日(木) 11:00~12:30	農産物の保存	フードシステムの高度化に伴って開発・導入が進められている保存技術について学ぶ。	1.5
	13:30~16:40	財務管理の必要性と複式簿記	多様な入出金の管理の重要性とそのための複式簿記について学ぶ。	3
28	11月10日(金) 11:00~12:30	野菜の栽培管理	野菜の栽培技術を学ぶ。	1.5
	13:30~16:40	財務管理 ～基礎～	経営管理や意思決定に関連付けた会計情報の分析及び活用の実践的手法について学び、経営分析の読み方、活かし方を学ぶ。	3
29	11月17日(金) 11:00~12:30	果樹の栽培管理	果樹の栽培技術を学ぶ。	1.5
	13:30~16:40	財務管理 ～実践～	経営管理や意思決定に関連付けた会計情報の分析及び活用の実践的手法について学び、経営分析の読み方、活かし方を学ぶ。	3
30	11月24日(金) 11:00~11:30	ホスピタリティ・マネジメント事前学習	ホスピタリティ・マネジメントについて事前学習する。	0.5
	11:30~15:00	ホスピタリティ・マネジメントの実際 【視察研修】	農林漁業や農山漁村の持つサービスの価値に着目した新事業創出について理解するとともに、ホスピタリティ(おもてなしの心)をベースとした農家レストランのマネジメントの実践を学ぶ。	2.5
	15:10~16:40	ホスピタリティ・マネジメントの検証	視察研修したホスピタリティ・マネジメントの事例について議論し、あり方を学ぶ。	1.5

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

No.	日時	科目	概要	時間
31	12月1日(金) 11:00~12:30	畜産の実態	畜産の基礎知識、家畜の育種、繁殖、飼養、畜産物利用、畜産の安全・安心などを学ぶ。	1.5
		ICT活用による販売戦略	ユビキタス社会における情報発信と、地域の観光や地産農産物の流通・販売等の場面での、情報システムの活用について学ぶ。	
32	12月8日(金) 11:00~12:30	財務会計、資金計画の作り方	経営管理や意思決定に関連付けた会計情報の分析及び活用の実践的手法について学び、経営分析の読み方、活かし方を学ぶ。	1.5
		やまがた食と農のビジネスの戦略的販路開拓(仮題)	農産物及び加工食品の流通実態やブランド力、販路開拓・拡大に必要なマーケティングの観点、商談会成功のテクニク等について学ぶ。	
33	12月15日(金) 9:20~12:30	販売力強化講座(5)	スーパーマーケットにおける農産物販売、インショップについて学ぶとともに、消費者目線での評価について議論する。	3
		ビジネス計画書作成(3)	個々人でプランの作成を行い、全体像を確認する。	
34	12月22日(金) 9:20~16:40	ビジネス計画書中間発表会(意見交換会)	個々人で作成したプランについて意見交換し、全体像を確認する。	6
		物質・エネルギー利用型地域資源利用論	農林漁業・農村の資源から生産される物質・エネルギー利用の具体的事例や産業としてのポテンシャル(バイオマス利用や医薬品や工業製品の原料としての利用など)が進められていることを学ぶ。	
35	1月12日(金) 11:00~12:30	ビジネス計画書作成(4)	事業構想のブラッシュアップ、事業計画作成の課題整理を行う。	3
		ビジネス計画書作成(5)	個々人で作成したプランについて、グループワークで意見交換し、全体像を確認する。	
37	1月26日(金) 9:20~16:40	ビジネス計画書発表会	各人が作成したビジネスプラン(計画書)を発表し合い、意見交換を行う。	6

平成29年度 食と農のビジネス塾 カリキュラム、科目の概要

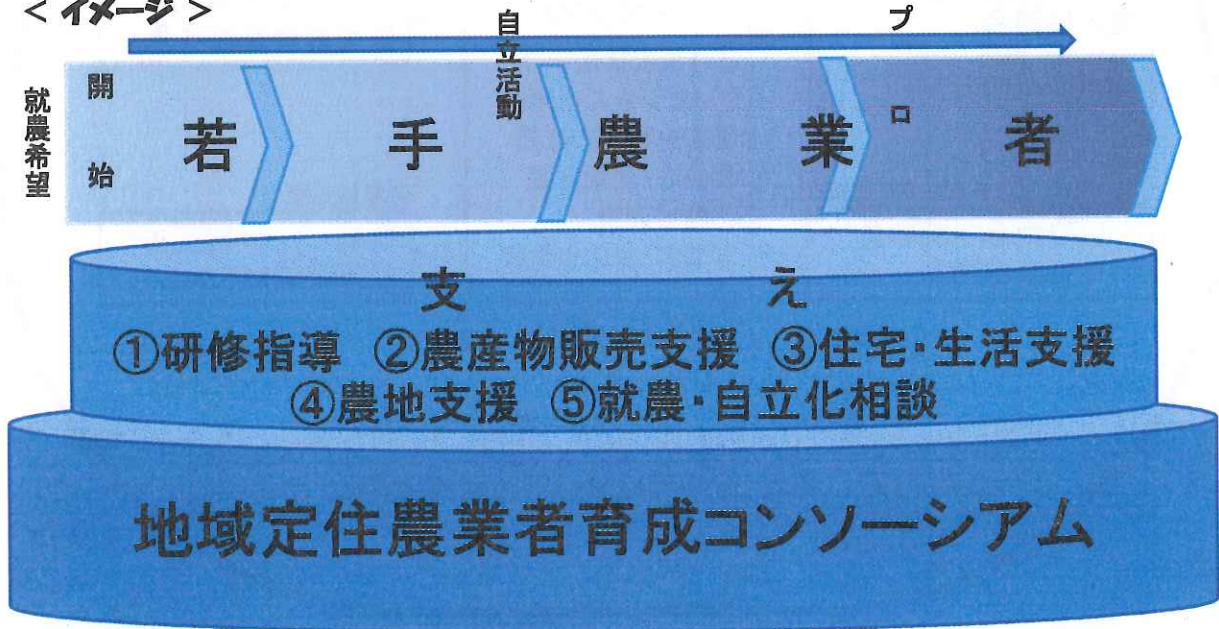
No.	日時	科目	概要	時間
38	2月2日(金) 13:00~14:30	ビジネス計画書優秀者報告会	ビジネスプラン(計画書)優秀者による報告会を行う。	1.5
	15:00~16:00	修了式		
OP	2日間	販売実習	販売イベントへの参加実習を通じ、実売体験及び消費者ニーズ把握の重要性を学ぶ。	12
総時間数				166.5

地域定住農業者育成プロジェクト

(目的)

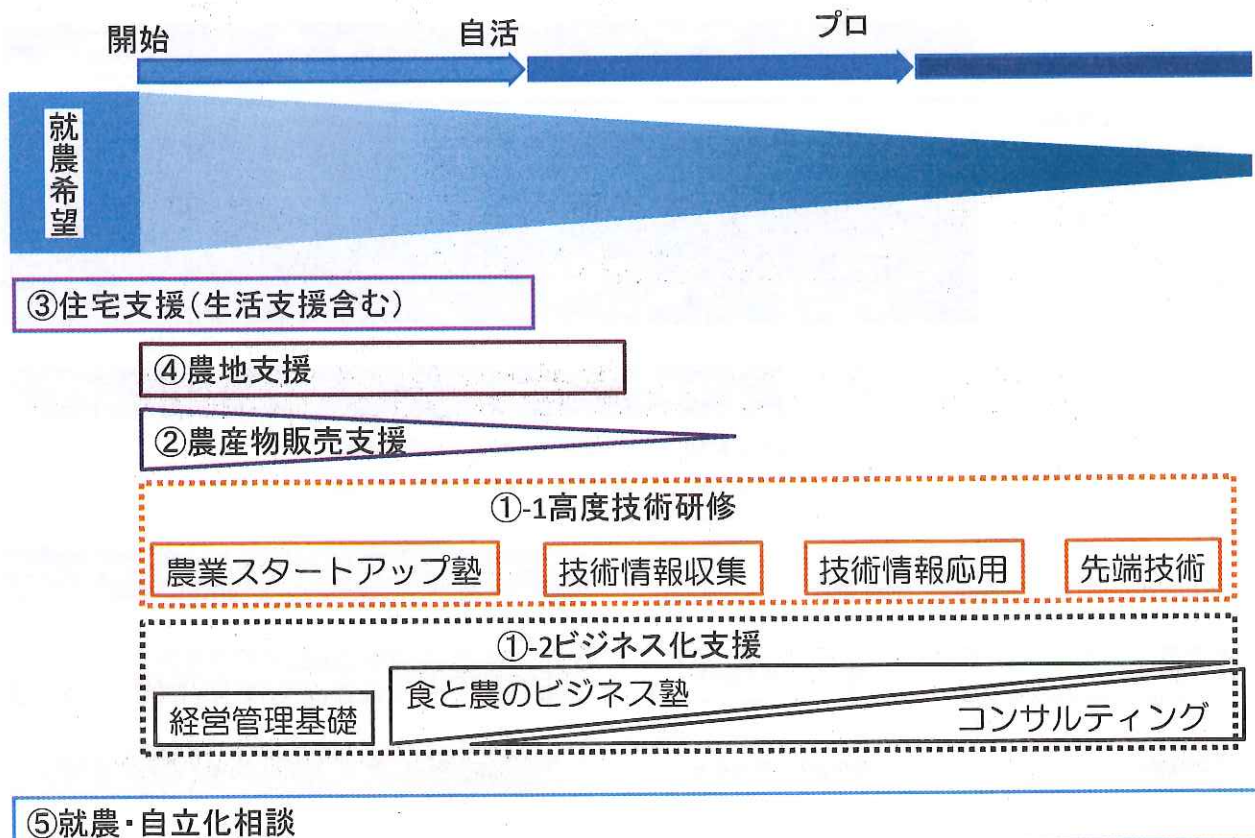
本地域で農業を志す若手農業者に対し、自立(経営感覚の優れた担い手)に向け、地域定住農業者育成コンソーシアムを組織し、高度技術研修、ビジネス化支援、農産物販売支援、住宅・生活支援など総合的支援で支え、地域定住に繋げ、農業の発展と地域経済の振興を図っていく。

< イメージ >



1

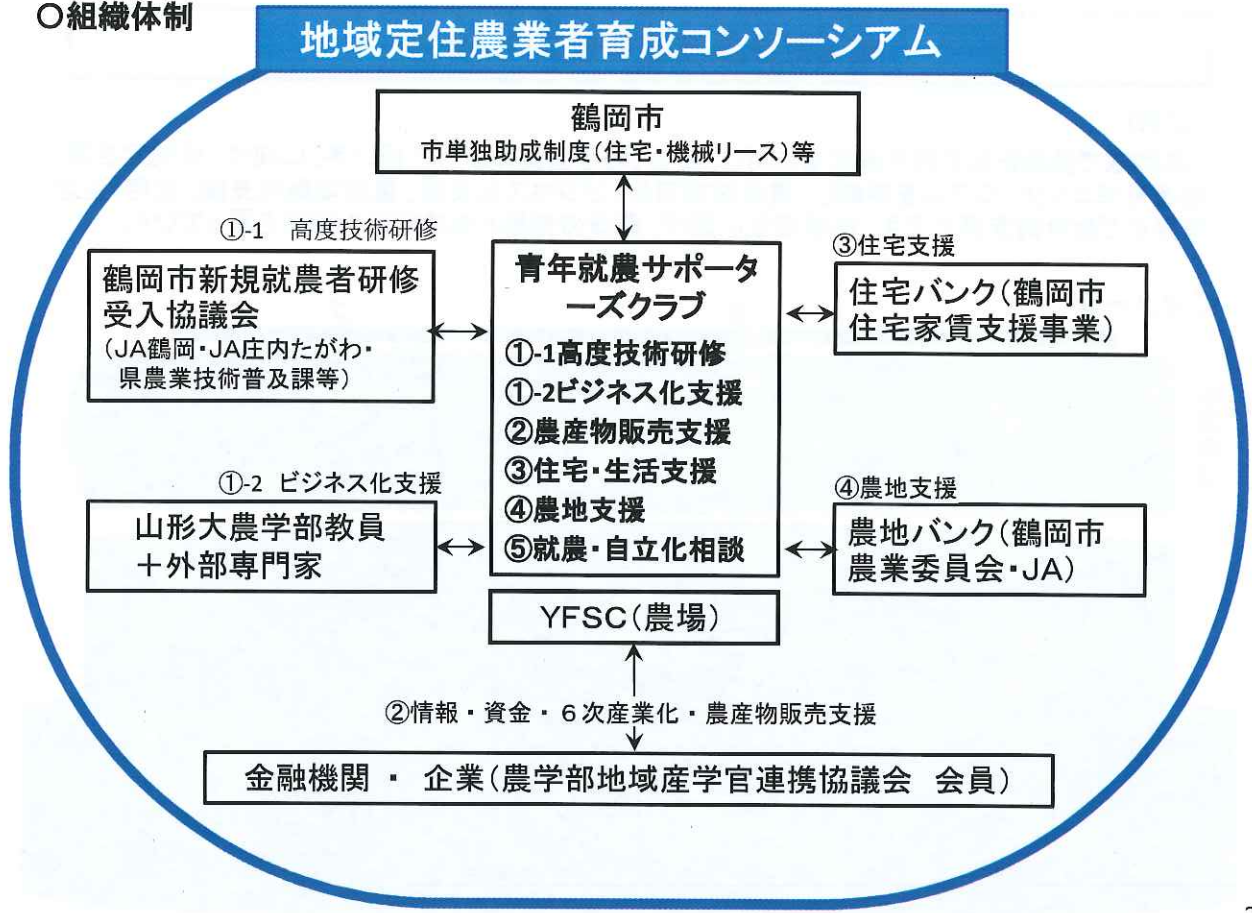
農業者の成長ステージ別支援イメージ



2

○組織体制

地域定住農業者育成コンソーシアム



5カ年計画

	H28	H29	H30	H31	H32
①-2ア. 食と農のビジネス塾	実施	実施	実施	実施	実施
①-1イ. 技術情報収集・応用 ①-2イ. コンサルティング ③住宅・生活支援 ④農地支援 ⑤就農・自立化相談	情報収集と相談 青年農業者の集い(月1回開催)				
①-1ア. 農業スタートアップ塾 ①-1イ. 先端技術研修	準備	実施	実施	実施	実施
食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座と連携 農家体験実習、学生向け講座(鶴岡市の産業、非定期)					
②農産物販売支援	準備	準備	実施	実施	実施
対象地域	鶴岡市主体で実験		対象地域を拡大する		
経費負担	鶴岡市と大学で負担		自主財源による自立化		

平成29年4月3日
山形大学

大学の講義を体験してみませんか？～トワイライト開放講座のご案内～

山形大学小白川キャンパスにある人文社会科学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として広く開放します。（理学部の授業科目は一般市民も受講可能です。）

現在、平成29年度の講座受講生を募集しています。この機会に大学のキャンパスで、大学生と一緒に様々な講義を体験してみませんか？

高校生を対象に、小白川キャンパスで開講する授業科目を、前期は2科目（人文社会科学部、理学部）、後期は4科目（人文社会科学部、理学部、地域教育文化学部）開放します。受講を希望される場合は、ホームページから受講申込書をダウンロードの上、各学部担当あてにFAX、Eメール、または持参してください。高校生の受講申込者は高校単位でとりまとめをお願いします。

■募集期間

- ・前期開講分（平成29年4月～7月） 募集締切 4月分 4月11日（火）
5月以降分 4月25日（火）
- ・後期開講分（平成29年10月～平成30年2月） 募集締切 9月12日（火）

※ 募集の締切終了後においても、受講生数の調整が可能であれば受付られますので、担当窓口までご相談ください。

- 対象者 高校生（理学部の科目は一般市民の方も歓迎します）
受け入れ人数を超えたときは、受講をお断りする場合があります。

- 受講料 無料

- 場所 小白川キャンパスの各講義室（それぞれ指示された場所）

- 開講時間 午後4時30分～午後6時

詳しくは、ホームページ（<http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/area/twilight>）をご覧ください。

（お問合せ先）
山形大学学生センター 地域教育文化学部担当
電話 023-628-4309

平成29年4月3日
山形大学

特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」 －高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集－

山形大学高校生朗読コンクールは東北6県の高校生を対象に平成20年度から実施しており、今年で第10回を迎えます。今年度は浜田広介記念館にご後援いただき、高畠町出身の浜田廣介作品を課題として、出場者を募集します。

また、同時開催の群読劇は、復興に向け東北の力を舞台芸術で結集する取り組みとして平成24年度から始まりました。本学学生が山形の市民の皆さま、子どもたちとともに朗読劇「泣いた赤鬼」（浜田廣介作）を制作・上演します。5月から開始される稽古に向け、出演者を募集します。

◆高校生朗読コンクール・群読劇開催概要

日時：平成29年9月10日（日） 13時～17時 （時刻は予定です）

場所：遊学館（山形県生涯学習センター）ホール（山形市緑町一丁目2-36）

第1部 第10回山形大学高校生朗読コンクール

参加資格：東北6県の高校に在籍する高校生

録音による予選審査を経て、10名程度が本選に出場予定。

予選朗読課題文：浜田廣介著 「からかねのつる」全文

※本戦は浜田廣介の別の作品を出場者に割り当てます。

第2部 群読劇「泣いた赤鬼」上演

出演：一般市民（公募）20名程度・山形大学学生

上演作品：浜田廣介著「泣いた赤鬼」

※基盤共通教育「舞台をつくる2017」の受講者を中心に山形大学学生が企画・運営します。

◆背景

山形大学では平成20年度から高校生朗読コンクールを主催してきました。平成24年度からは特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」の一環として、高校生朗読コンクールと同時に群読劇を開催しています。

昨年度は、一般市民、山形の子もたち、山形大学学生が出演する群読劇「恩讐の彼方に」を同時開催しました。朗読コンクールには東北6県の高校から134人の応募があり、群読劇では、演出家の佐藤正文さんとともに29人のメンバーがステージで熱演しました。

（お問合せ先）

山形大学 エンrollment・マネジメント部 社会連携課

電話：023-628-4016

山形大学特別プロジェクト
「いま、言葉を東北の灯ともしびに」

第10回山形大学

高校生朗読コンクール

出場者募集

予選課題

『浜田廣介童話集』から

「からかねのつる」

第10回を迎える山形大学高校生朗読コンクール、今年も昨年引き続き、予選・本選とも山形県高島町出身の浜田廣介の作品を取り上げます。予選課題文は短編童話「からかねのつる」です。

例年100名を超える高校生の応募をいただいている本コンクール。今年度も東北地方の多くの高校生の応募をお待ちしております。



東北6県の高中生から出場者を募集します

山形大学特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯ともしびに」
第10回山形大学高校生朗読コンクール

本選について

課題：浜田廣介氏の作品から（出場者それぞれに指定）

日時：平成29年9月10日（日）13:00～17:00

会場：遊学館（山形県生涯学習センター）ホール

主催：国立大学法人山形大学

後援：公益財団法人浜田広介記念館

応募資格 東北6県（青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島）在住の高校生、または各県内の高校に在学中の高校生。
※高等専門学校生は1年生から3年生までとします。
同一高校からの応募人数制限は設けません。

予選課題 浜田廣介「からかねのつる」全文
（ハルキ文庫版『浜田廣介童話集』145～148頁）

応募締切 平成29年6月30日（金）

第10回山形大学高校生朗読コンクール

平成29年9月10日(日) 13:00~17:00

東北6県の高中生から出場者を募集します

◎ 予選募集要項

応募資格 東北6県(青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島)在住の高校生、または各県内の高校に在学中の高校生。
※高等専門学校生は1年生から3年生までとします。同一高校からの応募人数制限は設けません。

予選課題 浜田廣介「からかねのつる」全文

(以下は、ハルキ文庫版『浜田廣介童話集』にもとづく。

145頁本文1行目「ある公園の池のなかでありました。」から

148頁本文9行目「わきあがる思いのおもわれました。」まで。)

※なお、『浜田廣介全集』(集英社)等、別の本に収録されている本文によっても差し支えありませんが、その場合は、使用した本文の出典データ(書名、発行年、出版社)を応募書類に明記してください。

審査方法 山形大学教員からなる予選審査委員会が録音によって審査します。

応募方法 上記課題文を朗読・録音し、下記応募受付まで郵送等で送付、あるいは直接持参をお願いします。
録音メディアは、CD-R/USBメモリーのいずれかとします。メディアには氏名を明記してください。
メディアは衝撃からの保護を施して、「高校生朗読コンクール応募」と朱書した封筒に入れてください。

応募締切 平成29年6月30日(金)

備考

●応募の際、以下の項目について記した紙を同封してください。書式は自由です。

①氏名(よみがな) ②性別 ③学校名、学年 ④自宅住所・郵便番号 ⑤自宅電話番号

⑥(高校で取りまとめてご応募の場合)担当教員のお名前と電話・ファクス・電子メールアドレス等

※記載情報は本学からの連絡のみに用い、他用途には転用しません。

●録音の最初に、学校名、学年、氏名を録音して下さい。

●予選の録音メディアの郵送料等は自己負担とします。

●予選で大学に送付されたメディアは返却せず、本選後録音を消去します。

●予選は学内の教職員で構成した審査委員会が審査を行い、結果は全応募者に7月末までに自宅に郵送でお知らせします
(学校でとりまとめて応募いただいた場合は、学校にも結果をお知らせします)。

●予選通過者は本選に参加いただけます。また、予選通過者名は公表します。

●文章中の地名や人名等の固有名詞の難読語等の読み方に限り問合せに応じます。

◎ 本選について

日時 平成29年9月10日(日) 13:00~17:00(時刻は予定)

会場 遊学館(山形県生涯学習センター) ホール(〒990-0041 山形市緑町一丁目2-36)

課題 浜田廣介氏の作品から、予選通過者それぞれに異なる部分を審査委員会が指定します。

備考

●審査結果通知時にそれぞれの課題部分を指定します。

●作品の内容や量による審査の有利不利は起きないよう審査の際に配慮します。

●本選の審査は、学内のメンバーで構成した審査委員会が行います。

●本選の上位3名を山形大学学長賞として表彰します。他に特別賞・会場賞も設けます。

●優秀賞も含め各賞には賞状・記念品を贈呈します。

●本選は群読劇『泣いた赤鬼』上演とあわせて催しとして一般公開します(一般入場者応募の詳細は7月末ごろ公表します)。

●出場者の旅費は自己負担とします。

応募・お問合せ先

山形大学 エンrollment・マネジメント部社会連携課 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

Tel:023-628-4016 Fax:023-628-4491 E-mail:embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※電話によるお問合せは平日9:00~17:00をお願いします。

☆ 出演者募集 ☆

群読劇 『泣いた赤鬼』

申込×切
5/8
まで

山形大学では、復興に向け東北の力を舞台芸術で結集する取り組みとして一般市民の皆さまと東北を応援する舞台を上演しています。6回目の上演となる今年度は、浜田廣介原作の「泣いた赤鬼」を取り上げます。



過去の稽古・本番の様子



募集人数 20名(先着順)

参加資格 本番と原則として稽古の夜の部に参加可能な方

※年齢や性別、演劇の経験の有無等は問いません。

※稽古・上演に係る経費等の負担を出演者をお願いすることはありませんが、稽古場・劇場への交通費等をご負担下さい。また、出演料等はお支払いいたしません。

稽古

会場：山形大学小白川キャンパス

平成29年	5月12日(金)	夜
	6月9日(金)	夜
	7月7日(金)	夜
	7月31日(月)	夜
	8月1日(火)	夜
	9月7日(木)	夜
	9月8日(金)	夜

リハーサル

会場：遊学館(山形県生涯学習センター)ホール

平成29年 9月 9日(土) 午後・夜

本番

会場：遊学館(山形県生涯学習センター)ホール

平成29年 9月10日(日)
13:00~17:00

※第10回山形大学高校生朗読コンクールと同時開催

お問合せ
お申込み

山形大学エンロールメント・マネジメント外部社会連携課

TEL:023-628-4016

FAX:023-628-4491

E-mail: embml@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈申込先〉 山形大学インクルメント・マゼンタ部社会連携課
FAX:023-628-4491 TEL: 023-628-4016
E-mail: embml @jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成29年度 山形大学特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」
群読劇「泣いた赤鬼 ほか」出演申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上、E-mailまたはFAXにて申込先までお送りください。

お電話でのお申し込みも受付けます。

ふりがな お名前	性別		年齢
	男・女		歳
ご住所	〒 -		
連絡先電話番号	ご自宅 :	-	-
	携帯電話 :	-	-
F A X		-	-
E-mail			@

※今回記載して頂いた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。